

令和元年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和2年8月20日

学校法人 宮地学園

幼稚園型認定こども園 杉の子第2幼稚園

当園ではこの度、学校評価として、教職員の自己評価と学校関係者評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自分自身や園全体を見つめ直すよい機会となりました。また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

1. 本園の教育目標

「笑顔がいっぱいの杉の子第2幼稚園」
①心身ともに調和のとれた発育・発達と健全な人間性の基盤を作ること
②精神的にも肉体的にも、つよく・かしこく・たくましく・感性豊かな思いやりのある子の育成
＜杉の子第2幼稚園の教育＞
「教育とは、しっかりした理念をもって、子どもを伸ばすことである」～しかも、笑顔つきで～

2. 本年度重点目標・計画

＜本年度の重点＞
・教職員の資質・指導力の向上⇒個々の力と組織力
・チーム園の結集
・人間的な魅力（あたたかさ、ポジティブシンキング）
・表現力、特に聞く力の育成
・個から集団へ（個を大切にしながら、集団としての力を育む）
・保育から教育へ（幼稚園らしさの追求）
・保育部・幼稚園部・預かりの連携
・危機管理（安全対策）
・人材の確保・育成
↓ そのために
○目標と指導と評価の一体化を図る
○つけたい力、目標等を明確にし、ストーリー性のある展開、活動を行う
○子どものやる気、主体性を生かす
○子どもの話（声）に耳を傾ける
○年長児のモデル化、異学年の交流を図る
○行事や体験活動、あそびを通して生きる力を育む
○一生懸命にやるすばらしさを体感させる
○あいさつ、「ありがとう」「ごめんね」が気持ちよく言える子どもの育成
○情報の発信
○子どもの笑顔があふれる環境づくり

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育課程を見直し改善を図る	A	・子どもたち一人ひとりの意志を尊重し、子どもとの信頼関係を構築し、自らが生活できる環境づくりを大切にされた指導計画を立て保育実践を行っている。 ・月案・週案・日案の計画及び職員会などを通し、計画的なクラス運営ができています。 ・行事等様々な生活や体験を通して、自らが感じることを大切にしている。そして、なかま意識や生きる力を育むことができた。 ・日々の打ち合わせ、職員会や保・幼合同の職員会等で、情報の共有・確認を行い、子どもたちの指導に生かしている。

2	職員の資質向上(研修・情報共有等)	B	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの成長や理解度を高めるための教育・保育内容の研究と実践ができており、スキルアップができています。 行事や公開保育後の反省・振り返り及び夏季研修、救急研修、アレルギー研修、特別支援研修等の多様な研修を大切にするとともに、教育・保育活動に生かしている。 子どもの興味・関心を大切にし、子ども自身が主体的に活動できるように、援助・支援活動を積極的に進めている。
3	特別支援教育のための園内支援体制を整備する(家庭との協力・連携も含む)	A	<ul style="list-style-type: none"> 個人別の教育支援計画を作成し、教職員で共有し合いながら個々に応じた支援につなげている。 支援学校や行政機関などと連携し、その子にとって1番いい方向と考える取り組みを模索し、支援を推進している。 特別な支援の必要な子どもたちに共感的にかかわり、理解する姿がみられている。
4	安全管理体制の強化	B	<ul style="list-style-type: none"> 園内の危険個所を子どもたちと共に見つかり共に考えたりして、子どもの安全意識を高めると共に、安全な生活や活動に配慮している。 給食時の安全点検も定着してきた。常に危機管理や安全意識を持ち、教職員が協力して環境構成に務めるようにしている。

評価の基準 (A:十分達成されている B:達成されている C:取組まれているが、成果が十分でない D:取り組みが不十分である)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	4つの評価項目について重点的に取り組み、一人ひとりの乳幼児を大切にされた質の高い教育・保育を実践することができたし、さらなる質の向上に向けた課題も明確になった。

評価の基準 (A:十分達成されている B:達成されている C:取組まれているが、成果が十分でない D:取り組みが不十分である)

5. 今後取り組むべき課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教育内容	<p>反省点を見つけることで、より良い保育ができるようにしていく。反省や課題を気軽に口に出して、相談し合えるようにしていく。教職員像を共通理解できる様に具体的に文章化する等、可視化していく。教職員間で十分に話し合えるような職員会等のミーティングを持ちたい。ピアノの上や棚の上に物がある等環境整備が少なくてなかったのを、改善していく。育てたい姿を思い描き、それに添った指導計画を立案し、その計画に沿った実践の在り方を探っていく。日々の教育・保育、環境設定について、常に、振り返り見直すことを続けていく。</p> <p>自分のやりたいこと、やってみたいことを十分にできる時間と環境作りができるよう努める。子どものために、保育者が楽しんで教育・保育ができるように務める。道具、用具等がいつでも取り出せるような環境整備を図りたい。環境設定が確実にできていることもあるが、更なる改善をしていきたい。教育・保育活動では、ストーリー性をもって子どもたちに分かりやすく、楽しくできるように務めたい。</p> <p>特別な支援の必要な子どもについては、担任に聞かないと情報が共有されにくいいため、教職員間での連携を更に深めたい。</p> <p>アレルギー児への接し方を改めて考えていくために意識改革とともに、人員の確保が重要であると感じている。アレルギー対応では、ダブルでの確認や声掛けを重視して、対応に当るようにする。安全面では、危機管理意識を持ち続けるように心がけたい。そして、安全点検表の有効な活用に務める。</p>

6. 学校関係者の評価

< 鴨田小学校教頭 >

・自然体験や、同学年あるいは異学年交流など、子どもたちの経験値が減少しているなかで、幼児期における教育・保育の重要性を感じるどころである。貴園の重点目標での人間的な魅力（あたたかさやポジティブシンキング）やその目標を達成するための具体的方策として挙げられているやる気や主体性を生かし、子どもの声（思い）に耳を傾けることなどは、小学校でも常々考えていることである。

・語彙が少ない幼児期だからこそ、子どもたちの表情や行動などからその思いを受け取るよう児童理解に努めることや、教育につなげるためのきめ細やかな手立て、準備、環境整備など一層努力されていることと思われる。

・自尊感情が低かったり、やる前からあきらめたりする児童が、友だちからのことばやできた喜び、粘り強く頑張れる力などの経験を通し、少しずつ自信をつけられるような関わりや支援の在り方が、本校における課題のひとつである。すでに行われていることだと思うが、園児一人ひとりの個性や興味関心を引き出す実践を積み重ねてほしい。

・現在、貴園と本校とは、1日入学や新年度に向けた引継会、進級後の情報交換会等で交流を行っている。1日入学では進級に対する不安を少しでも少なくし、期待を膨らませることを目的に、前年度入学の1年生と園児との交流を図っている。1年生にとっては、相手意識をもたせた表現や行動などの目標をもたせるとともに、上級生としての意識の醸成に役立つ有意義な取組である。また、引継会や情報交換会において、児童の個性や背景を知ること、バランスの取れた学級編成や適切な支援につながる貴重な機会となっている。保幼小からの子どもの成長につながるよう、貴園が大切にしてきた保護者や子どもとの信頼関係や子どもの学びを、小学校でも継続、深化、発展させたいと考える。

< 後援会会長 >

・各クラス、毎月の目標を設定し園便りに記載したり、行事等の目標やつきたい力等を「園長室のまど」に随時記載されているので、分かりやすく、行事等に視点をもって参加することができる。年間を通した保育計画を関連付けして目標設定するとともに良いものになるであろう。

・日常の保育のなかで、保育士一人ひとりが、子どもたちがどういうことに興味を示し、どんな考えをもっているか常に観察し、そのことを教職員と子どもがいっしょに共感することで、保育に生かすことができている。また、教職員は、子どもの意見に常に肯定的なことばかけを行い、子ども同士もお互いの意見を尊重し合うことで、子どものやる気につながっていると感じる。

・年長児は、「幼稚園のなかのリーダー」と園のさまざまな活動のなかでも言われている。そのことばからも、年長組になったら子どもたちはとても張り切り、日常の保育のなかでも自然と年下の子どものお世話をしたり、片付けやお手伝い等を率先してできている。また、年長児のみの取組一よさこいや運動会のマストのぼり、鼓笛隊等一生懸命行う姿を見ることで、年中児、年少児が模倣したり、意欲につながっていると感じる。

・食育にも積極的に取り組み、野菜の栽培、サツマイモの苗植え・収穫・焼いもパーティを行ったり、給食で使用する野菜の皮むき等の「直接体験」を通して、自然に興味をもち、育てることの楽しさ、たいへんさが分かり、食べ物のありがたさや食事を作っている人への感謝に結びついていると思う。

・年長児のよさこいや鼓笛隊は、たくさんの人に見ていただき、その人たちの感動や声援をもらうことにより、子どもたちも達成感を感じることができた。子どもたち同士でも、がんばってよかった、みんなで気持ちをひとつにしたからすばらしいものができた等、子ども同士が喜びを分かち合い、次の行事への意欲につながったと思う。

・「おはようございます」や「さようなら」は、自発的に言えていると思う。「おはよう」や「ありがとう」のことばが園にあふれているので、子どもたちもそれを見て、あいさつができる子どもに育っていると感じる。

・「園長室のまど」やHP内のブログを通して、ふだんの園児の様子や行事の様子等を頻回にアップしている。また、園舎内には写真も多く掲示しており、子どもの園での姿や表情がよく分かる。タイムリーに情報発信を行ってくれているため、仕事等で忙しい家庭も幼稚園で取り組んだことを確認することができ、子どもとの会話につなげていくことができている。また、月1回クラス便りも作成しており、その月にどういうことに取り組んだかがよく分かった。

・教職員が、常に「子どもの話を聞く」「子どもに共感する」「子どもとあそぶ」「子どもをほめる」ことができているため、常に子どもたちの笑顔があふれている園だと思う。また、職員の方々の雰囲気もよく、子どもたちも安心して楽しく活動できたと思う。自然体験や、同学年あるいは異学年交流など、子どもたちの経験値が減少している中で、幼児期における教育・保育の重要性を感じるどころである。

<評 議 員>

- ・保護者、子どもが何を求めているかを考えて、貴園に通わせたいというブランドを作っていく必要がある。評価が継続的に高まっていくことで、満足度も高まって安定していく。
- ・一時の安定ではなく、しっかりした理念をもって経営していくことで安定も継続されていく。

<あたご幼稚園園長>

教育課程の改善・職員の資質向上・特別支援教育…。本年度、多くの事柄に取り組み、実践と反省を繰り返しながら、前進してこられた様子を感じました。とても素晴らしいと思います。

私は、学校評価（自己評価）について、やり方を間違えれば、危険につながると考えています。ともすれば先生方を自身の内側に向かって追い込んでしまうようなことになりかねないからです。あたご幼稚園では、過去に努力義務を課したことが、パフォーマンスの低下となる失敗を何度も繰り返していました。その反省点に気付いたのが、他ならぬ自己評価でした。私たちは、長い間、何の躊躇もせず、自分を追い込むことに専念していましたが、現在はガラリとかわり、コンセプトは「仕事を楽しむ」です。その中に「評価を楽しむ」があります。

方法は各園独自ですが、どの園も目指すところは「質向上」です。そのために、欠かすことができないのは、「園のよさ」「このスタッフで仕事する強さ」など、持っている力を明確にすることと思っています。現在の良さを全体で共有することで、まずは自信を持つこと。次に、さらに良くしていくためには、何が必要か？を考えていくこと。この2点さえ、しっかりとすれば、後は、時々きりの良いタイミングで、振り返りながら、その都度、成果を確認すればよいと思います。この振り返りは、職員全員からどんどん発言があるような場にする工夫が必要です。コツとしては、最初に明らかにした「良さと課題」を軸とすることで、園長先生が描く理想と各先生方が担当する現実とが、調和しやすくなると思います。

そこで、お勧めしたいのは、多くのカテゴリーに挑戦するのではなく、今年取り組めそうなことを、一点に絞ることです。それを抽象的な言葉で表しておきます。例えば、「発達を考える」といった重点にしておくと、先生方は、多くの場面で発達を意識します。対応に困る場面に遭遇した時や、理解できないような行動を目にしたとき等は、「一旦発達の視点に戻って考えてみましょう」という共通の営みを続けていくこととなります。そのうち園内は、発達についての話題が盛んになります。話題に花が咲けば、次第にその営みが、先生方には楽しいものとなります。それぞれの実践を出し合いセッションするうちに、発達理解が進み、教育課程の文言が現実と繋がっていきます。年度末に振り返った時、楽しかったこと、やってよかったことが、たくさん出てくるように進めていくことが、幼稚園運営に求められるマネジメントであり、そこで先生方から出てきたたくさんの思いこそが、学校評価（自己評価）であると考えています。